

鈴鹿子ども食堂・りんごの家

# 地域の交流広場を目指して

NPO法人「shining」が毎月開催している「鈴鹿子ども食堂・りんごの家」は親子や地域住民が集まって食事を作り一緒に味わう交流の場。子ども同士や親同士幅広い世代の人々が出会い多様なつながりを持ち時には助け合う中で地域への愛着も生まれています。



(右)中国人ママの食材提供や指導で、中国や韓国の料理を作ること。この日は本格ヨーグルトに挑戦！(左)クリスマスにはケーキなどのデザートも皆で手作りします。今年はチョコレトブラウニーの予定

## 子育て支援につながる地域のコミュニティ作り

「一人ひとりが輝ける、地域のコミュニティを作りたい」との思いから設立されたNPO法人shining。理事長の岡田聖子さんは20代半ばの頃、古代遺跡好きが高じて訪れていたタイで、現地の女子大生の友人に紹介され、孤児院でボランティア活動に携わりました。「そこで出会った子どもたちは、経済的に恵まれていなくても、将来への夢を持っていました。日本の子どもたちについて考えると、生活は豊かだけれど、なんだか夢がないように思えたんです」。その友人がスマトラ沖地震で被災し、音信不通になると悲しい出来事から、岡田さんは「子育て支援に情熱を注ぐ」という約束を

果たそうと決意します。

介護支援専門員として働くかたわら、さまざまなボランティア活動を経験してきた岡田さん。結婚、出産を経て、子育てをする中で知り合った母親仲間2人と、2014年6月、NPO法人を立ち上げます。「子育て中は、どこへ相談したらいいかわからない問題が多いものです。県外から転入してきたお母さんは、なおさら孤独を感じるでしょう。自分たちの経験に基づいて、悩んでいる人たちの助けになれるよう、行政とも連携したコミュニティ作りを目指しました。そして、子ども同士でも親同士でも、地域の高齢者でも、誰でも気軽に集えて、悩みを共有したり、情報を交換したり、助け合ったりしながら、地域で心穏やかに子育てができればいいなと思ったのです」

目標に向け、まずは実績を作ろうと、心理カウンセラーとしてのキャリアを持つ岡田さんがママさんサークルやコミュニティカフェで講座を実施。ほかのメンバーも、伊藤美枝さんがハンドマッサージ、中村文さんが筆文字で、親子参加型のワークショップを開催するなど、手探りで子育て支援をしてきました。そんな活動のさなか、「子ども食堂」という取り組みを知ります。

## さまざまな課題をクリアし子ども食堂開設を目指す

子ども食堂は、家庭の事情でバラバラの良食事ができない、または一人きりで食事をしている子どもたちに、無料や低価格で食事を提供する



地域の人たちから提供された野菜で作った「おふくろの味」。ボランティアの輪が広がります

行政や企業からも関心を持ってもらうことで、地域への愛着が深まるとうれしいですね。



小さな子どもたちも料理に興味を持ち、自分から進んでお手伝い。周囲を和ませます



(右)NPO法人shining理事長の岡田聖子さん(左)鈴鹿市まちづくり応援補助事業として、夏休みに子どもたちの職業体験イベントを開催。ガラスや木工のクラフトを体験しました

### information

## 鈴鹿子ども食堂・りんごの家

日時/毎月第3土曜 10時開場 11時開始  
場所/鈴鹿市社会福祉協議会(鈴鹿市神戸地子町383-1)  
参加費/中学生以上300円 3歳~小学生100円

詳しくは下記ウェブサイトをチェック  
NPO法人shining  
<http://www.nposhining.com/>

目的でなくても食事を作って提供する場には、トイレとは別の手洗い場が必要です。「公共の施設だと、大抵はトイレの中に手洗い場がありませんから、なかなか難しい。ほかにもキッチンとトイレが離れていなければならなかったり。費用の問題もありますし、条件を満たした上で借りられるところが、なかなか見つからなかったんです」

も食堂の趣旨を地道に伝えていく中で、企業や個人商店、寺や神社などから、食材や消耗品などの提供も増えています。また食事の後、ボランティアの協力で勉強会を実施。ほかにも針と糸を使ってシシュウを作ったり、リトミックを習ったり、季節に合わせてクリスマスケーキを作ったり、餅つきをしたりと、さまざまなイベントを取り入れていきます。

以来、子ども食堂は毎月1回、第3土曜に開催。今年4月からは市社会福祉協議会(神戸地子町)に会場を変更し、大きな広間が使えるようになりました。岡田さんたちが子ども

「たくさん作ればおいしいし、一緒に食べれば楽しい。初めて包丁を使う子どもが多い中、料理をはじめとしたさまざまな体験は、子どもたちの力になります。大きな子が小さな子の面倒をみたりもします。子どもも親も交流を深め、多様なつながりを持ち、行政や企業からも関心を持ってもらうことで、地域への愛着が深まるとうれしいですね。進学や就職で地元を離れる子どもたちが、いずれば帰ってくるための、心の拠り所にもなると思うのです」

「子どものやりたい!やってみよう!体験」と題し、子ども食堂の後に職業やモノづくり体験を企画、食育教室や伝統文化教室なども開催しているshining。メンバーも増え、いずれは活動の拠点と併せて、家でも学校でもない「第3のホーム」として、誰もが気軽に立ち寄れる場所を作りたいと考えています。「創徳地区で空き家を探しています。活動でネットワークを広げていき、そのつながりから良い場所が見つかると思います。また、子どもたちに何かを伝えてくださるボランティアも大歓迎です」



11月の子ども食堂には親子34人とボランティア5人が参加。照り焼きチキンやサバの竜田揚げ、キノコの炊き込みご飯などを作って味わいました